

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1090300276		
法人名	医療法人 山育会		
事業所名	グループホームサンシャインわたらせ		
所在地	群馬県桐生市元宿町2115-1		
自己評価作成日	平成30年 9月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.sanikukai.com/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成30年9月27日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・毎日の散歩により、下肢筋力低下を防ぎ、地域の方々との挨拶や交流を積極的に行っている。 ・掃除、調理、洗濯など日々の生活を通し、個々の機能に合わせた役割や張り合いを持ち、維持が出来るよう努めている。 ・月1回の認知症カフェの開催や、法人内のイベントへの参加、個別での買い物や外食など、外出を多く受け他者との繋がり、喜び、楽しみの機会を持てるよう支援している。 ・毎月、異なる想定で、避難訓練を実地し、災害時に備えている。 ・利用者と職員が「ありがとうございます」の言葉をいつも言っている関係を築いている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>廊下の天井は天窓があり、食堂の窓は一面がガラスになっていて全体が明るい。食堂から広いウッドデッキに通じ、天気の良い時はお茶が飲めるようテーブルが置かれており、盆栽や植木が置かれていて、週2回地域の方が水やりや手入れに訪れている。その他、認知症カフェを月に2回開催し、慰問もある。自治会長にチラシの配布を依頼するなど積極的に働きかけ、地域の方との関係を築いている。買い物や食事の外出は、食堂のカレンダーに予定を記載して、それを見て利用者が楽しみにできるようにしており、外出後はその都度家族に報告して理解をいただいている。古布で編み物をするなどのイベントには地域の方も参加したり、地域の方が自由に行き来し、利用者や散歩の時には気軽に地域の方が声をかけてくれるなど、地域の方と身近な環境にある。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設時に職員全員で理念を作り、訪問者に見えるよう玄関に掲示している。事業所内に掲示もあり、職員は日頃より意識をし支援に努めている。常に理念に沿ったケアが出来るよう相談、話あっている。	理念は、開設時に、職員と話し合いホームとして目指す方向性を確認し、言葉の意味も考えつくりあげた。会議やケアを行うなかで理念の意味を考えながら実践し、管理者も日々のケアの中で伝えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時は挨拶や会話を交わし、地域の行事には積極的に参加、毎月のカフェやイベントの際は、手作りのチラシを1軒1軒手渡しをして、参加をお願いしている。施設開催の祭りや交流会では自治会に相談を行い、協力を頂いている。ご近所の方が定期的に花をウッドデッキに持って来て下さる。	自治会との関わりを大切に、散歩やイベントの案内など組織的にホームから積極的に関わり声かけして、近隣とのつきあいを築いている。高齢者を地域全体で支えることをモットーに、事業所と地域の方が相互に相談できるように、日常的に交流を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症窓口を設けており、いつでも気軽に相談できるよう努めている。介護サポーターの受け入れを行っている。毎月の認知症カフェ開催時は広く地域へ向け、発信し、随時相談・理解への支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	月ごとに、行事や活動報告・予定報告・ひやりハット・事故報告を行い、施設の理解や助言を頂いている。議題についても、ご意見やアドバイスを頂き、月1回のミーティングで話し合い支援に繋げている。議事録は毎回、ご家族に配布したり事業所内に掲示している。	災害時における安全確保について話し合い、避難所の役割として受け入れていくことなど、地域への協力体制も視野に取り組んでいる。その他、行事など実施に向けて、地域の方々や意見交換を行ったり、家族から気づいたことなどを発言してもらったりして、取り組みに活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、意見や提案を頂いている。介護保険の更新手続きの際にも必要な助言・指導頂いている。ご家族からの疑問などで相談をして、助言を頂いている。	困難事例を市に相談し助言をうけ、連携を密にしながら運営に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回以上の研修・2か月に1回の適正化のための指針について、地域の方と話し合いの場を設けミーティングで職員に伝えている。職員は勉強会に参加し、適正化についての考えを理解し、代替ケアを相談し、検討している。玄関やテラスは、日中はオープンし、利用者の行動を尊重している。	身体拘束についての理解を深めるため、法人で研修会を実施しているほか、日頃、“なぜ”を考え、ミーティングやカンファレンスで事例検討を行っている。また、申し送り時などで、声かけの方法などについて話し合い、身体拘束をしないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時や、トイレ付き添い時に身体状態・外傷の有無を観察し、確認された際は記録に残し、原因について話し合いを行い、家族へ報告している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は活用されている方はいないが、以前、自立支援事業を活用されていた方がいて、買い物をする際の支払い確認や、出納帳に記録していた。必要だと管理者が判断した際には説明や、活用の検討を行う、支援をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に、出来る限り本人とご家族に見学をして頂いている。その際に契約についての説明を行い不明点や、疑問点についての質問にお答えしている。不安や要望についても傾聴している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置し、ご家族面会時にも、質問や意見を伺っている。運営推進会議でも、議題にあげ、ご意見や提案を頂き、ミーティングで、職員間で、話し合っている。	意見箱への意見はないが、花見などの行事を通して、意見を聴取している。傾聴する姿勢と話しやすい雰囲気づくりは職員間で確認し合い、実践している。家族の交流会を通して事業所に対しての要望を聞く機会としている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の組合があり、職員からの要望や意見を、経営労務会議で、法人代表と話し合いが行われている。結果報告も各施設へ行われている。	カンファレンスやミーティングで、法人内の経営労務会議で代表を通じ、職員の意見を反映させている。地域の繋がりを考えた事例をテーマに対外の大会で発表している。チャレンジシートを用い、1年の反省点や意向調査を行い、職員の意向も反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回、全職員が、チャレンジシートを記入し、就労の反省や、目標を考え、意向調査を行っている内部、外部の場で、QC活動や事例発表など行い意欲向上に繋げている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修や講演会の案内を事業所に掲示し、参加出来るようにしている。各施設に研修係を置き、職員から学びたい事をアンケート調査、選定を行い、年間計画を立て、約月1回勉強会を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	認定介護福祉士研修への参加、受け入れを行い法人内外での研修や勉強会に参加出来る機会を作り、他事業所の良い点など、取り入れる取り組みがある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に出来る限り情報を収集し、職員間で共有している。本人と積極的なコミュニケーションをはかり、どのように生活したいか、傾聴し、職員間で把握し、信頼関係を築けるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設を見学してもらい、面談の時間を設け、ご家族と本人の現状や、以前の生活や、環境の把握に努め、不安や要望についても、傾聴している。入所後も本人の何気ない言葉に耳を傾け、家族に確認し、家族の面会時に情報交換を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前、入所後も本人とご家族と面談を行い、本人の言葉や行動の観察を行い、～したいという意向を踏まえ、必要とする支援を見極め対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の意思を尊重しながら、今持っている能力を活用し、食事の支援や片付け、洗濯や裁縫、買物など一緒にいき、達成感を持って頂けるよう努め、お礼の言葉を必ず伝えている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	状況報告を面会時や、電話で行っている。外出時の自宅での様子や状況を伺い、職員間で共有している。毎月、担当職員が、わたらせ便りで本人の日常の様子を伝えている。年1～2回、家族交流会を行い、一緒に過ごす機会を設けている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間の制限を設けず、いつでも面会出来るようにしている。馴染みの人の面会や外出も、ご家族の了解のもと受け入れている。以前から続けているサークル活動に参加されている方もいる。	帰宅した時に、親戚や友人に会ったり、外出行事を企画するなかで地域の祭りを組み込んだり、地域と馴染める支援に努めている。希望があれば、馴染みの店や友人に会いに連れて行くなど、継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	関係性やペースに合わせ、座席も配慮している。散歩や、外出時も相性を考慮している。レクリエーションや体操等、一緒に楽しむ機会を設けている。孤立して過ごす事が無いよう、職員が間に入りコミュニケーションを取れるよう気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院された利用者様の状況の確認の電話や、入所されている利用者様と職員がお見舞いに、出掛けている。契約が終了した方のご家族にはイベントなどの、お誘いをしたり、必要に応じ、相談を、受けられるよう努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所時に、これまでの生活歴の把握に努めている。本人の希望や意向の聞き取りが困難な時は日常の関りからの表情や反応を、観察し、汲み取り、支援するよう努めている。	日頃のコミュニケーションのなかで、表情やしぐさからも汲み取り、本人がどのようにしたいかなど、思いを把握している。また、職員が接しているなかで、反応から引き出す方法として、「大丈夫ですか」と声をかけるなどして、個人の希望に沿った支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者様の生活歴や生活環境を、いつでも確認できる個人ファイルがある。職員間で、これまでの生活歴について、情報の共有に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の精神状態、身体状態の観察を常に注意を払い、臨機応変に対応出来るよう心掛けている。環境を整え、現状の有する能力、出来ることの把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ミーティングやカンファレンス、申し送り等で、情報意見の交換を行い、モニタリングに反映している。日々の生活やモニタリングに生かせるよう、ケアプランを個人記録と一緒にファイルして、確認しながら、現状に即した介護計画を作成している。	勤務の職員が日々の記録をして、担当職員が毎月モニタリングを行い、管理者が確認後、ケアマネジャーが最終的にまとめるシステムになっている。毎月のカンファレンスでは、モニタリングをもとに職員で話し合い、現状に沿ったケアプランの見直しにつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランに即した支援を実地し、結果気づき日々の様子を個人記録へ記入している。申し送りノートを活用し、工夫や変更を記入し、職員間で情報を共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人や、ご家族の状況に応じて、同法人内の介護施設や、病院と連携を取り、利用が出来る。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護サポーターが土日に来設している。暮らしの中で必要とする、生活用品等、利用者様と一緒に地域商店へ買い物へ行っている。ボランティア慰問や、地元企業の訪問や、地域のイベントに参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急時のアンケートをご家族に定期的に確認している。本人、家族と相談のうえ、かかりつけ医、協力医と連携を取り、受診が必要な時は、ご家族の都合に合わせ、受診の支援を行い、必ず家族へ報告を行っている。	入居時に家族と相談して、かかりつけ医を決めている。現在、協力医・個別のかかりつけ医をそれぞれ受診しており、往診対応している。訪問看護師のアドバイスもある。家族との連携を密にとり、受診後の報告も行い、安心して医療が受けられるよう支援を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、訪問看護の来設があり、日常の関わりの中で、身体、精神的観察や状態の報告を行っている。緊急時の場合にも対応してもらう為の体制が、出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	即時に情報の提供が出来るようサマリーを作成しご家族、地域連携室と連絡を取っている。状態の把握や、治療の進行状況の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	緊急時のアンケートで、ご家族の意向を把握している。定期的に再度意向の確認を行っている。終末期について職員は勉強会等で学んでいる。訪問看護、かかりつけ医、協力医との連携を図っている。ターミナルケアマニュアルを策定している。	入居時に、終末期の指針を家族に伝え、意向を確認している。マニュアルを策定し、法人全体で勉強会を行っており、10月には看護師であり当事者の立場から、終末期患者の思いについて研修会を予定しており、事例を通して終末期ケアの在り方を学び、ケアに活かせるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は救急救命講習を受講し、急変時に備え、定期的に学習している。緊急時の対応マニュアルがありAEDが設置してある。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	毎月、想定を変え、火災、地震、水害に備え、避難訓練を行っている。年2回の自衛防災訓練を、消防署、地域協力のもと、実地している。	年2回うち1回消防署立ち会いのもと、夜間想定を取り入れて、防災訓練を実施している。そのほか、防災アドバイザーの指導を受けながら、毎月想定を変えた避難訓練を行っている。事業所の連絡網を地域の方に渡して、緊急時協力していただけるようにしている。	火災、地震などの災害の形態を考え、事業所でできることを整理すると共に、地域の方の協力の方法(役割)を考えた、地域との協力体制づくりを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人一人の人格や意思を尊重し、声のトーンやタイミング、言葉使いに配慮し対応している。基本的には苗字で呼び、個々に合わせた誇りやプライバシーを損ねない対応を職員は共通情報としている。	部屋に入る時はノック、トイレ時は耳元で確認、個人の呼び名は入居時家族に確認するなど、一人ひとりの人格を大切にしている。声のトーンにも気配りをしたり、入浴の時、自立している方は少し外に出て見守りしたりなど、情報を共有しながら個々に合わせた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様本人の要望や希望を傾聴し、自己決定が出来るよう待つ事を心掛け、支援している。本人からの希望が聞けない時は、ご家族からの情報も取り入れている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その時の利用者様の体調や気分にも配慮し、個々の日課や、人格、ペースに合わせて、臨機応変な対応を行っている。希望を傾聴し、確認を行いながら、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴準備や、着衣時は一緒に本人の好みに合わせ行っている。訪問理美容を受け入れ、ご本人の好みに合うよう手配している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	週2回の手作り昼食は、季節感を取り入れ、利用者様の好みや、希望を聞きながら決めている。買い物、調理、後片付けまで、出来る範囲で一緒に行っている。職員も一緒に食事し、楽しい雰囲気作りを行っている。	簡単な調理や片付け、食材の仕分けは、職員と一緒にしている。季節によって何が食べたいかを聞き、希望を取り入れている。食事時間は利用者との会話を大切に、クラシックの音楽を聞きながら、職員と一緒に1時間かけて食事をする習慣にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	フロアにいつでも飲めるよう、常時ポットを置いてある。毎食、食べた量を記録に残し、水分摂取量も職員が把握しており、不足している時は、好みの物や、お茶ゼリーなど提供している。食事形態についても、本人に合わせ、刻んだりトロミを付ける等工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、個々の口腔ケアを行い、磨き残しを確認し、介助している。月1回、歯科衛生士の訪問があり口腔内の状態を確認している。口腔内の状態やブラッシングの方法など指導を受けている。必要に応じ歯科受診介助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表、ケア表に記録し、個々の排泄パターン、習慣性に合わせ、トイレ誘導を行っている。残在能力を活かし、トイレで排泄が出来るよう対応し羞恥心に配慮した支援を行っている。	排泄は、パターンを把握し、個々に合わせた対応をしている。夜、パット使用が一人のみであり、夜間トイレに起きる場合は、見守りを行っている。日中のトイレ時は声かけするが、夜間は安眠妨害になるので、声はかけないようにしている。排便が継続してない時は、医師に相談して対応している。排泄時は羞恥心に配慮した対応をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のパターンや習慣性の把握に努めている。毎日の散歩や、体操を行い、運動量の確保に努めている。水分や食物繊維の多い食品、乳製品等を提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者個々の希望に合わせ、本人のペースで、入浴出来るよう支援している。マンツーマンで対応し、ゆっくり入浴出来るよう、職員との相性やタイミングの配慮をしている。入浴出来なかった時は、清拭、着替え等、清潔を保ち、入浴日を調整している。	入浴は基本的に週2回であるが、希望があれば毎日でも対応の方針である。個人のペースに合わせてゆっくりと入浴していただき、入浴後は水分補給を促すようにしている。入浴時ゆっくり職員と会話を行うなど、個々に合わせた支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は散歩や体操、レクリエーションや外出を多く設け、活動量を増やし体内リズムを整えられるよう支援している。状況や体調に応じて、日中居室で休んで頂く事もある。夜間眠れない方には、入床を強要せず、お話したり、お茶を提供したりして、安心して眠れるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	お薬手帳の管理、個々のファイルにお薬の情報を入れてある。薬局より処方された時に、注意事項について指導を受け、職員間で共有している。内服時は、名前や日付を2人対応で確認し、飲み込みまで、確認している。症状の変化等、かかりつけ医、協力医に相談し対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の出来る事や得意とする事を、日々の生活で、活躍し張り合いを持てるよう支援している。季節に合わせて、イベントや外出を計画し、気分転換が出来るよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎日ご近所へ散歩に行っている。個別で買い物に対応している。季節に花を見学に行ったり、外食など行っている。地域のお祭りに参加したり、チラシ配りなど、地域へ一緒に出向くなど行っている。	家族や本人の希望に沿った外出ができるよう支援している。サークルで巾着づくりやフラダンスなど、友人の迎えがある利用者、事業所や法人の他の事業所開催のカフェを利用している利用者もいる。また、日常的に散歩したり、地域のイベントにも参加したり、外出を楽しめるよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族の了承のもと、お金を本人が管理されている方がいる。買い物希望があったり、外出時、ご自身で、支払いをして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば、電話を利用して頂いている。自身で携帯電話や固定電話を使用している方もいる。PCのスカイプを利用し、ご家族に連絡している方もいる。年賀状や暑中見舞いなど、手紙の遣り取りも出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、居間、居室入り口などに、季節の花や利用者様と一緒に作った飾りなど、置いている。日中はカーテンを開け、光を多く取り込み開放感を持って、多くウッドデッキから季節に応じた花や食物を楽しめるよう、努めている。廊下、フロア、トイレは歩行を妨げないよう配慮している。	食堂は、大きいガラス窓になっていて明るい。食卓は六角形で、全員の顔が見えるようになっている。食堂に続き広いウッドデッキがあり、雨以外は外でお茶を飲みながら楽しめる環境で、近隣の方も気軽にデッキや食堂に上がり、利用者とお話を弾ませたり、季節の庭花を挿してくれたりなど、居心地よい環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用フロアは利用者様同士がお互いの顔を見ながら、談笑出来るよう設置している。廊下奥にはソファを設置し、静かにゆっくり過ごす空間を設けている。ウッドデッキに椅子とテーブルがあり、日光浴やお茶を飲んだりするスペースがある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人ご家族様と相談し、馴染みの物や使い慣れた日用品や家具、寝具など自由に持ち込んで頂いている。居室も自由に写真やインテリア、飾りをしてもらっている。	ベッドは、事業所で提供している。使い慣れた洋服のラック、テレビ、調度品が置かれ、壁には家族写真や懐かしいサークルの写真が飾られている。古布を使って編み物をしているなど、多彩な趣味の一端もうかがわれる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室に花の飾りをつけたり、一緒に作ったネームプレートを飾り、個々に分かりやすく、目印のように活用して頂いている。ホールからは、全体を見渡す事ができ、台所は仕切りの戸を閉めず、行き来しやすいようにしている。手すりも各所に設置してあり、安全の確保に努めている。		